



京都第二赤十字病院図書室の相互利用における文献複写業務 —NACSIS-ILL 相殺参加後の変化—

川野 真樹

I. はじめに

病院図書館において、病院スタッフから求められる文献を探し、入手し、速やかに依頼者に渡すという文献複写業務は、利用者サービスの中では比重が大きい。病院図書館担当者はこの業務をいかに早く、簡便に対処できるかを考えてサービスの充実を図っていることだろう。当院図書室でも、2006年に図書館機能の整備を始めてから、病院スタッフから求められる文献依頼に速やかに対応するだけでなく、文献複写にかかる支払い手続きをも簡素化できるようサービスの充実を図ってきた。

今回、2008年度から行ってきた当院の文献複写業務について、参加している図書室(館)ネットワーク別にどのように業務が変化したかを報告する。

II. 当院の概況

当院は病床数639床、診療科21科、臨床研修指定病院、救急告示病院、地域医療支援病院など、各種認定を受けている地域中核急性期病院である。

2010年度の図書室蔵書数は単行本1,387冊、和雑誌160(2011年購入和雑誌:92)、洋雑誌95(2011年購入洋雑誌:27)、電子ジャーナル44(和雑誌:1、洋雑誌:43)で、雑誌所蔵年はほとんどが2005年以降である。電子資料は、医学中央雑誌Web版、メディカルオンライン、DynaMed、MEDLINE with Full Text、The

Cochrane Libraryを導入している。図書館間の相互利用における文献複写業務は2007年7月から始めた。

1. 文献複写業務で利用している参加図書室(館)ネットワーク

2007年以前から参加している図書室(館)ネットワークは、近畿病院図書室協議会(近畿)、日赤図書室協議会(日赤)である。その他に、図書室(館)ネットワークではないが、1999年度より京都府立医科大学附属図書館が所蔵する資料を同大学関係病院などに勤務する医師や医療従事者に提供している医学情報ネットワークサービス事業に参加し、京都府立医科大学附属図書館から文献を取り寄せていた。しかしスタッフが求める文献は医学領域に限らず、職種によっては心理学や人事マネジメントなどの文献を求められ、病院図書館や医学系大学図書館だけへの依頼では対応できない文献もあった。また、NACSIS非参加館だと文献複写の受付自体が断られる時もあり、文献複写の依頼先が決まるまでに時間がかかる場合もあった。その他にも依頼先の図書室(館)ごとに支払い方法が異なるため支払い業務が煩雑化し、それに伴い支払い業務にかかる時間も1カ月に1度、半日以上かかる状況になった。

これら文献複写業務での問題に対して、文献の依頼館を選択する幅を広げ、迅速に文献を入手し、支払い業務を簡素化することを目的として、2009年4月よりNACSIS-CAT/ILL参加館であれば利用できるILL文献複写等料金相殺サービス(NACSIS-ILL相殺)に参加した。

2. NACSIS-CAT/ILL について

国立情報学研究所 (NII) が行っている目録所在情報サービスであり、NACSIS-CAT は参加館によるオンライン共同分担目録方式により、全国規模の図書および雑誌の総合目録データベースを形成するシステムである。NACSIS-CAT に登録された情報が NACSIS Webcat や ILL に利用される。NACSIS-ILL は NACSIS-CAT のデータベースを使用し、オンライン上で相互貸借や文献複写の依頼・受付のメッセージをやりとりするシステムである¹⁾。

3. ILL 文献複写等料金相殺サービス (NACSIS-ILL 相殺) について

NACSIS-ILL システムを利用して発生する文献複写などの料金について、加入機関ごとに一定の期間で依頼に伴う債務と受付に伴う債権の相殺を行うサービスである。四半期に1度、NII より受付料金と依頼料金を相殺した結果、受付料金がプラスになった場合は請求書、依頼料金がプラスになった場合は振り込みの通知書が送付され、それによって各施設が NII に対して会計処理を行う。利用規定にて営利目的の利用は禁止され、ILL 料金相殺サービスの運用に支障を及ぼす利用を行わないこと、利用に当たっては、著作権に十分留意することなどが挙げられている²⁾。

Ⅲ. 当院の ILL 状況

当院が相互貸借サービスを始めた 2008 年度からの文献複写の依頼・受付件数の推移をみると (図 1)、2008 年度は 1,794 件、2009 年度は 1,314 件、2010 年度は 1,172 件と依頼件数が減少傾向にある。理由としては 2008 年度に和雑誌総合データベースであるメディカルオンラインを、2009 年度には MEDLINE の収録データの内、1,470 誌以上を全文で収録している MEDLINE with Full Text を導入したことで、利用できる電子資料が大きく増加したことが考えられる。受付件数については NACSIS-ILL 相殺に参加する前は 55 件であったが、NACSIS-ILL 相殺参

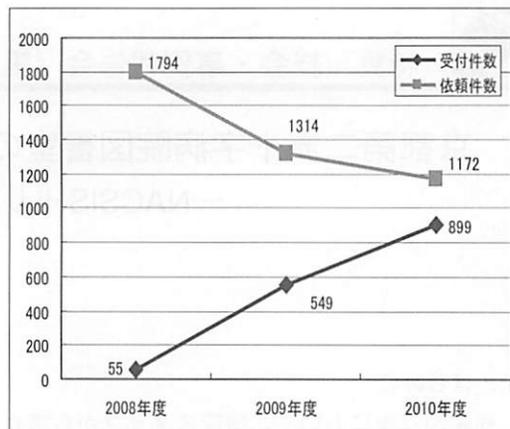


図 1 文献複写状況

加後、2009 年度は 549 件、2010 年度は 899 件と年々増加している。

1. ILL 依頼状況

文献複写の依頼先を図書室 (館) ネットワーク別にみると (図 2)、どの年度も半数以上は京都府立医科大学附属図書館に依頼している。2008 年度は京都府立医科大学附属図書館に 981 件、近畿に 62 件、日赤に 294 件、NACSIS-CAT で確認した図書館へ 428 件、その他 (国立国会図書館や文献複写業者) に 29 件を依頼していた。NACSIS-ILL 相殺参加後の 2009 年度は京都府立医科大学附属図書館へ 772 件、日赤に 8 件、NACSIS-ILL 相殺参加施設に 533 件、その他へ

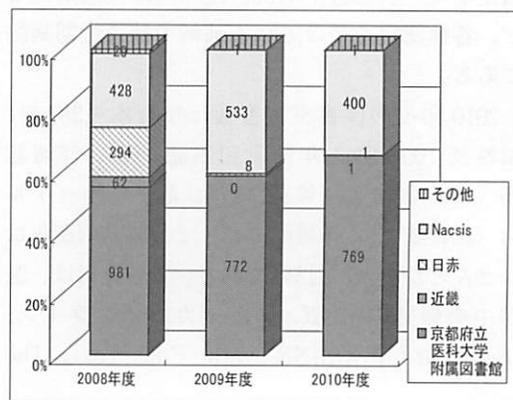


図 2 文献依頼状況 図書室 (館) ネットワーク別

は1件になり、2010年度は京都府立医科大学附属図書館に769件、近畿に1件、日赤に1件、NACSIS-ILL相殺参加施設に400件、その他へは1件となり、依頼先はほとんどが京都府立医科大学附属図書館かNACSIS-ILL相殺参加施設になった。

当院の依頼件数を職種別(図3)にみると、2008年度は1,794件中1,576件が医師からの依頼で、192件が看護師、26件がコメディカル(薬剤師や技師、作業療法士など)であった。2009年度は1,314件中、医師からの依頼が1,165件、看護師が121件、コメディカルが21件、事務職員が7件であった。2010年度は1,172件中、医師からの依頼が1,109件、看護師からが40件、コメディカルからが22件、事務からが1件であった。当院での文献複写依頼は8~9割を医師が占め、看護師やコメディカルからの依頼は少なく、事務職員からの依頼はわずかである。

依頼した文献を言語別(図4)でみると、2008年度は日本語文献への依頼が1,486件、外国語文献が308件、2009年度は日本語文献への依頼が992件、外国語文献が322件で、2010年度は日本語文献への依頼が805件で外国語文献が367件であった。当院からの依頼文献は全体の約6~8割が日本語文献であり、外国語文献は約2~3割である。

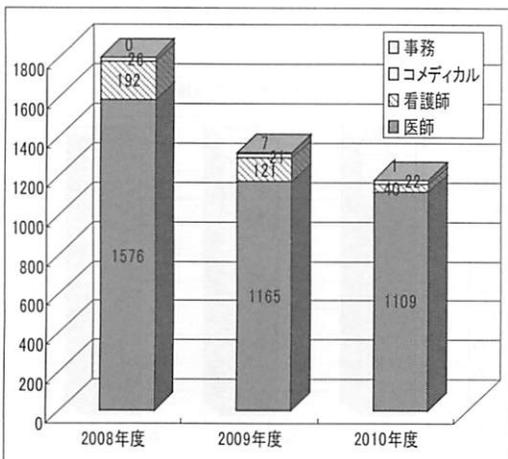


図3 文献複写依頼状況 職種別

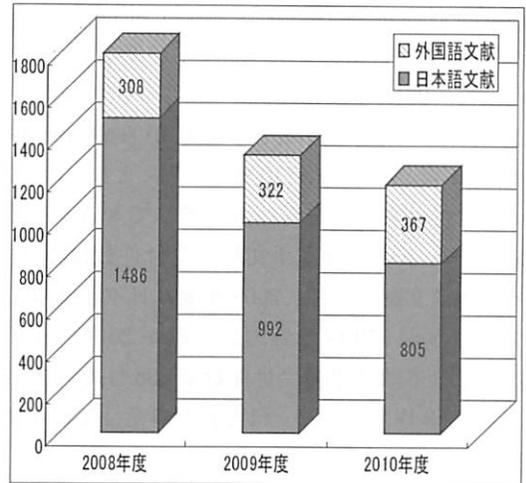


図4 文献複写依頼状況 言語別

2. ILL 受付状況

文献複写の受付状況を図書室(館)ネットワーク別(図5)に調べてみた。それぞれのネットワークで重複して参加している施設もあるので、日赤施設だが近畿にも参加している施設は日赤として、近畿や日赤の参加施設だがNACSIS-ILL相殺参加施設でもある場合はNACSIS-ILL相殺参加施設とした。2008年度は全体に占める割合をみると近畿から34件(61%)、日赤から19件(35%)、その他(当院参加の図書室(館)ネットワーク会員外)からは2件(4%)で、2009年度は近畿が37件

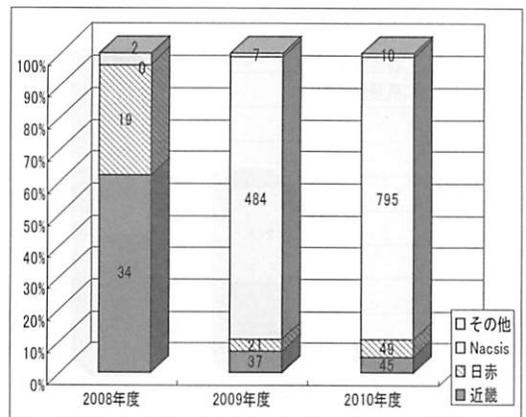


図5 文献複写受付状況 図書室(館)ネットワーク別

(7%)、日赤が21件(4%)、NACSIS-ILLからが484件(88%)、その他からが7件(1%)だった。2010年度は近畿が45件(5%)、日赤が49件(5%)、NACSIS-ILLからが795件(89%)、その他からが10件(1%)となった。

受け付けた文献を言語別で調べてみると(図6)、2008年度は日本語文献の受付件数は47件で外国語文献が8件、2009年度は日本語文献の受付件数が519件で外国語文献が30件、2010年度は日本語文献の受付件数が836件で外国語文献が63件であった。ほとんどの受付文献は日本語文献だった。

雑誌の種類を購読雑誌と寄贈雑誌に分けて調べてみた(図7)。2008年度は購読雑誌の受付件

数は40件、寄贈雑誌の受付件数は15件だった。2009年度は購読雑誌の受付件数が270件、寄贈雑誌の受付件数は279件だった。2010年度は購読雑誌の受付件数は408件で、寄贈雑誌の受付件数は491件であった。NACSIS-ILL相殺参加後は購読雑誌より寄贈雑誌の文献複写の受付件数が増加した。

文献の種類を医学、看護、コメディカルに分けて調べてみた(図8)。文献種類については定期購読雑誌の文献は購読対象職種で区別し、寄贈雑誌の文献は筆頭著者の職種で区別した。2008年度は医学文献が44件(80%)で看護文献が8件(15%)、コメディカル文献が3件(5%)であった。2009年度は医学文献が284件(52%)、看護文献が231件(42%)、コメディカル文献が34件(6%)になり、2010年度は医学文献が405件(45%)、看護文献が433件(48%)、コメディカル文献が61件(7%)になり、看護文献の受付件数が増加してきている。

雑誌種類別および文献種類別で調べてみると(図9)、2008年度では購読雑誌・寄贈雑誌どちらも医学文献への受付件数が多かった。寄贈雑誌では、2008年度の15件中、医学文献は10件(67%)、看護文献へは5件(33%)だった。2009年度は寄贈雑誌279件中、医学文献が107件(38%)で看護文献は163件(59%)、コメディカル文献が9件(3%)になり、2010年度には寄贈雑誌491件中、医学文献の受付件数は

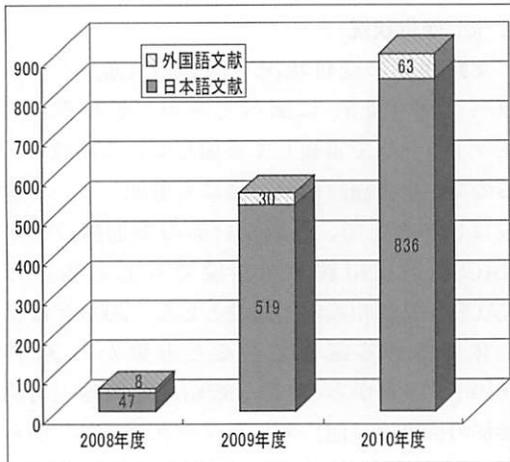


図6 文献複写受付状況 言語別

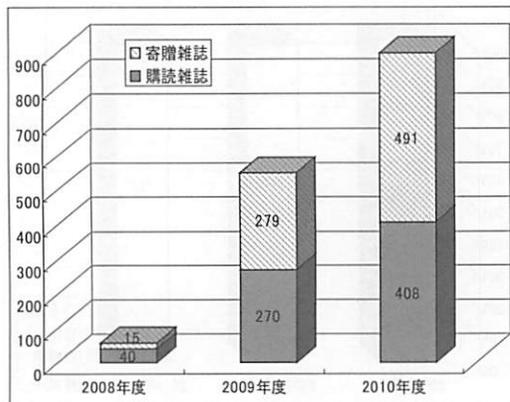


図7 文献複写受付状況 雑誌種類別

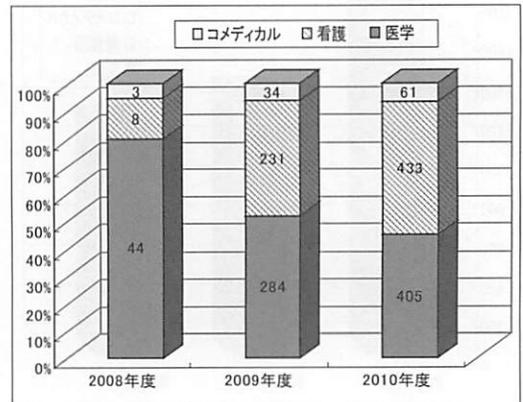


図8 文献複写受付状況 文献種類別

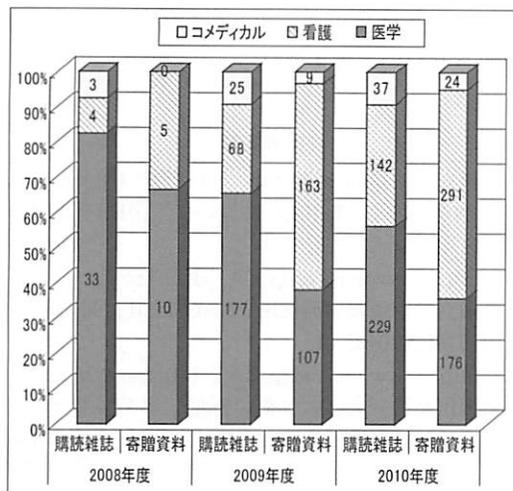


図9 文献複写受付状況 雑誌種類および文献種類別

176件(36%)、看護文献の受付件数は291件(59%)で、コメディカル文献が24件(5%)になった。NACSIS-ILL相殺参加後、寄贈雑誌の内、看護文献を受け付ける割合が半数以上になった。購読雑誌では2008年度は39件中、医学文献は33件(82%)、看護文献は4件(10%)、コメディカル文献は3件(8%)であった。2009年度になると購読雑誌270件中、医学文献は177件(66%)、看護文献は68件(25%)、コメディカル文献は25件(9%)となり、2010年度には購読雑誌408件中、医学文献は229件(56%)、看護文献は142件(35%)、コメディカル文献は37件(9%)となった。前年度と比較して、年々購読雑誌に占める看護文献の割合も増加している。

IV. 考察

NACSIS-ILL相殺参加前は、文献複写の相互利用において、文献複写の受付施設ではなく、当院はもっぱら依頼する施設であり、相互利用には至っていなかった。依頼する側の施設であった理由として、当院が指定する文献複写の支払い方法が郵便振替や切手ではなく支払手数料が割高な銀行振込だということが考えられる。NACSIS-ILL相殺参加後、受付件数が増加し、

特に受付文献種類では購読雑誌より寄贈雑誌への受付件数が多くなった。これはNACSIS-ILL相殺参加前の主なネットワークは病院図書館間のネットワークであったため、当院が所蔵している資料と他病院図書館が所蔵している資料は重複する部分が多く、資料を提供する施設になることが少なかったことによっても考えられる。また、医学より看護文献において寄贈雑誌、特に各病院が発行している紀要や医学雑誌への受付件数が多かった。このことを考えると、NACSIS-ILLでの看護分野の依頼件数が増加していると言われる中で³⁾、看護分野での文献は医学中央雑誌などの文献検索データベースに収録されていても、NACSIS-CATに所蔵登録している施設が少なく、医学分野と比較すると入手が困難な資料が多いということも推測された。

当院の文献複写を依頼件数と受付件数で比較すると、NACSIS-ILL相殺参加後、受付件数が増加したといっても、受付件数に対して依頼件数は多い状況であり、文献を提供する施設であると言うことはできない。しかし、NACSIS-ILL相殺参加により、病院図書館は蔵書規模が小さいながらも、寄贈雑誌や看護分野においては入手困難な文献を提供する施設としての役割があるように考えられ、病院図書館ならではの所蔵資料の特徴を見出すことができた。

V. おわりに

相互利用の文献複写業務においてNACSIS-ILL相殺参加後、受付件数が増加したが、1日に平均すると5~6件ほどであり、日常業務を圧迫するほどの増加件数ではない。NACSIS-ILL相殺参加により、受付件数が増加しても支払い業務の仕事量が増加することはなく、NACSIS-ILL相殺参加前に行っていた1カ月に1度、半日かかっていた支払い業務が3カ月に1度に減少した。そのため、文献複写業務全体で仕事量が増加した実感はない。近畿病院図書室協議会第121回研修会にて藤原純子氏が“NACSIS-ILL参加報告”⁴⁾で報告されたように、NACSIS-

ILLは文献複写依頼をオンライン上で行う方法なので、依頼にかかる時間は減った。その他にも文献複写の依頼館を選択する幅を広げ、迅速に文献を入手し、支払い業務を簡素化するというNACSIS-ILL相殺参加に当たっての目的は達成できた。これらは、病院スタッフへのサービスの充実および文献複写業務での会計業務の仕事量の軽減に繋がっている。

しかし、多くの病院図書館は一人職場であり、職員の交代によりサービス内容の変更や削減といった問題があるように、当院でも1人職場であるため、NACSIS-ILL相殺参加施設として目録を維持し、相互利用サービスを継続できるかといった問題がある。この問題に対応しつつ、病院スタッフへの図書館サービスを充実させるため、今後は医療部門の医師や看護師へのアピールだけでなく、事務部門も含めた病院ス

タッフ全体へもアピールし、図書館サービスを充実させたいと考えている。

参考文献

- 1) 国立学術情報学研究所. 目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) について. [引用 2010-05-01].
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/>
- 2) 国立学術情報学研究所. NACSIS-ILL 関連情報. [引用 2010-05-01].
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infoill/>
- 3) 米田奈穂 (東京大学柏図書館), 武内八重子, 加藤晃一他: ビッグディール後の ILL 千葉大学附属図書館亥鼻分館における調査. 大学図書館研究. 2006; 76: 74-81.
- 4) 藤原純子: NACSIS-ILL 参加報告—よりよい相互貸借を目指して—. 病院図書館. 2010; 30(2): 61-5.